

(6) 東海



東海地域では、景気は新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が徐々に緩和されつつあるものの、このところ弱い動きとなっている。

- ・ 鉱工業生産は弱い動きとなっている。
- ・ 個人消費は一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は感染症の影響が残る中で、弱い動きとなっているものの、求人等の動きに底堅さが増している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す (_ は上方に変更、 _ は下方に変更)

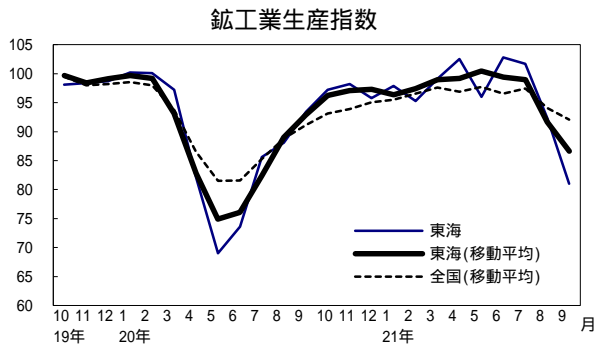
前回からの主要変更点

	前回 (令和3年8月)	今回 (令和3年12月)
景況判断	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部で弱さが増している	新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が徐々に緩和されつつあるものの、このところ弱い動きとなっている
鉱工業生産	持ち直している	弱い動きとなっている
個人消費	サービス支出を中心に弱い動きとなっている	一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる
雇用情勢	感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さが増している	感染症の影響が残る中で、弱い動きとなっているものの、求人等の動きに底堅さが増している

1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は弱い動きとなっている。

7 - 9月期の鉱工業生産は、「輸送機械」が減少したこと、「石油・石炭、化学、プラ製品」が減少したこと等により、前期比8.7%減となった。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		4 - 6 月期	7 - 9 月期	7月	8月	9月
輸送機械	40.1	1.9	18.1	1.1	19.7	26.5
電子・電気・情報通信	13.3	6.7	3.7	2.1	2.4	3.4
石油・石炭、化学、プラスチック	13.0	2.1	6.0	3.2	3.8	5.0
汎用機械・生産・業務用機械	11.2	9.9	2.0	0.5	0.4	4.7
鉄鋼業、非鉄金属、金属製品	6.4	0.1	3.2	2.0	2.6	8.0
鉱工業	100.0	3.1	8.7	1.1	9.2	12.2

- (備考) 1. 2015年=100、季節調整値。東海の最新月は速報値。
2. 全国及び東海の太線は中心3か月移動平均。
直近月は2か月平均。
3. 東海は内閣府にて算出。

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 7 - 9月期、9月は速報値。
3. 業種は内閣府にて分類。

2. 個人消費の動向

個人消費は一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる。

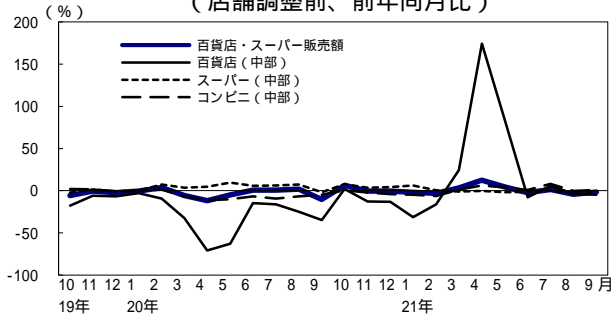
(1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

7 - 9月期は前期比1.0%減となった。月別にみると、7月は前月比1.2%増、8月は同3.7%減、9月は同1.0%増となった。

(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、7 - 9月期は前年同期比1.3%減となった。月別にみると、7月は前年同月比1.5%増、8月は同4.1%減、9月は同1.4%減となった。

百貨店・スーパー販売額等
(店舗調整前、前年同月比)



	2021年7月	2021年8月	2021年9月
RDEI(消費*1)	1.0	3.7	1.0
百貨店・スーパー(*2)	1.3	4.1	1.4
百貨店(*3)	0.3	3.6	4.8
スーパー(*3)	1.2	3.4	0.2
コンビニ(*3)	3.0	0.2	0.9
乗用車(*4)	16.5	1.3	36.5
季節調整値)(*4)	11.5	4.1	33.5

(備考) 1. 季節調整前(月)比(%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

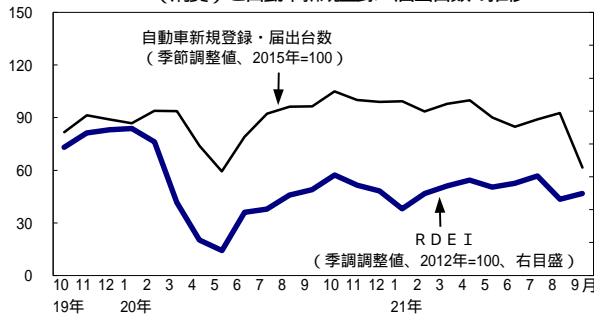
百貨店・スーパーは内閣府にて算出。

3. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

百貨店、スーパー及びコンビニは、経済産業省の中部(富山、石川、岐阜、愛知、三重)の値。

4. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))

RDEI (消費) と自動車新規登録・届出台数の推移

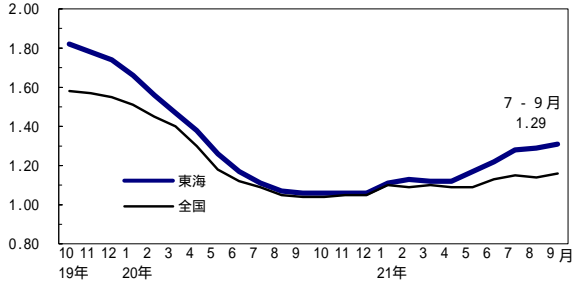


3. 雇用情勢

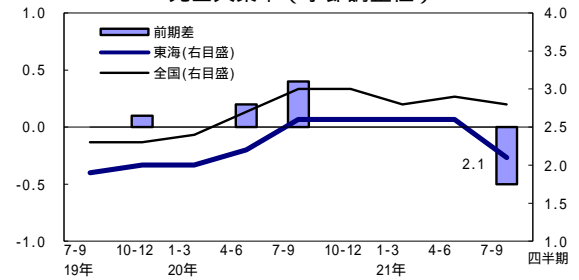
雇用情勢は感染症の影響が残る中で、弱い動きとなっているものの、求人等の動きに底堅さが増している。

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期を下回っている。

有効求人倍率 (季節調整値、就業地別)



完全失業率 (季節調整値)



(13) 景気ウォッチャー調査 (令和3年10月調査) 景気判断理由の概要

6. 東海

(良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪)

	分野	判断	判断の理由
	現状	家計 動向 関連	
			・コロナ禍は収束してきているなかで、少しずつ来客数が増えつつあるが、まだ思ったほどの回復がみられない。消費者の行動様式自体が変わっており、すぐに急激な変化は起きにくいと思われる (百貨店)
			・10月に入り緊急事態宣言も明け、期待をしたが例年の客足の約半分という結果になってしまった (その他住宅 [不動産賃貸及び売買])
企業 動向 関連			・緊急事態宣言の解除から、消極的ではあるが少しずつイベント等の広告受注が増えてきている (広告代理店)
			・原材料の価格高騰がとにかく止まらないので、コスト高が収益を圧迫しており、せっかく仕事が出てきても利益につなげにくい (金属製品製造業) ・前々年までとはいわないが、物量が回復基調にある (輸送業)
雇用 関連		・新規求人数が前年同期と比べ増加している。輸送用機械器具製造業の求人数の大半を占める自動車部品製造業の求人数は、前年同期と比べ大幅な増加傾向が続いている。半導体の供給不足や東南アジアでの新型コロナウイルスの感染拡大による部品の供給不足は依然としてあるものの、受注そのものは多く、新規求人数は好調を維持している (職業安定所)	
		・新型コロナウイルスの影響を受け疲弊した地元の経済だが、新規感染者数の減少もあり、今後は経済活動が活発になると期待するが、今のところはまだない。観光系企業でのPR活動が少し動き始めた程度である (新聞社 [求人広告])	
その他の特徴 コメント			：緊急事態宣言が解けて、出張と週末需要の宿泊が少し増えた。ランチも増えてきたがディナーは増えない。宴会は、11月の問合せはあるものの少人数である。忘年会・新年会はない (都市型ホテル) ：受注自体は好調だが、部品供給などの問題があり、実績がどうなるか不透明な状況である (電気機械器具製造業)
先行き	家計 動向 関連		・新車の納期遅れはしばらく続くと考えられ、年末に向けてのアピールを強く打ち出せない。また、客との会話のなかでは、収入の減少を心配する声を聞く機会が多くなっている。収入格差をこれまで以上に感じるが増えている (乗用車販売店)
			・新規感染者数はかなり減少している。心理面も緩和され、今後Go To Eatキャンペーンも再開されることがプラス要素となる (コンビニ)
	企業 動向 関連		・半導体不足や東南アジアからの部品供給の滞りは、まだ2~3か月は続くと考えている (輸送用機械器具製造業)
			・今後も新規感染者数が減少していくと思われ、外出や遠出する人が徐々に増加すると予想している。売上は徐々に回復していき、前年を上回ると思われる (不動産業)
	雇用 関連		・派遣求人数、成約数の増加傾向が続いている (人材派遣会社)
その他の特徴 コメント			：円安傾向で輸出には有利な状況だが、原材料の価格高騰、物流コストの上昇が激しく、円安メリットは飛んでしまっている。部品調達ができず、物流が正常ではない状況は、しばらく続きそうである (一般機械器具製造業) ：ガソリンの高騰が地味に食品関連の値上げとして価格転嫁されている。緊急事態宣言が解除され、飲食店への卸も徐々に元に戻りつつあるが、不安の方が大きい (スーパー)

(D I) 現状・先行き判断D I (東海) の推移 (季節調整値)

